

教育目標		令和 2年度 学校評価総括表				学校名 生駒東小学校		所属長名 古川 奈保子		
広く世界に目を向け、次の世代を担う、豊かな心をもった、たくましい子どもの育成 ・めざす学校 (○笑顔にあふれ、生き生きと学び合う学校 ○花を愛し、音楽を愛する心が育つ学校 ○安全に、安心して学べる学校) ・めざす子ども (○自ら学び、深く考え、行動する子ども ○思いやりがあり、助け合う子ども ○自他の生命と体を大切にする子ども) ・めざす教師 (○豊かな人間性と教育的愛情をもつ教師 ○常に新たなことに挑戦する教師 ○学校組織の一員として自覚を持ち、協働する教師)										
前年度に残された課題		本年度の重点課題				来年度に残された課題				
①進んで運動に取り組む子を育てるために、豊かになつたがりを大切に授業や行事を行う。また目に見えない形で児童が体力を高まりを実感できるようにしていく必要がある。 ②「あたたかい学校・学級づくりをめざして」をめあてに、なかまと協力し楽しく学校生活が送れているか、児童の小さな変化に目を配り、早期に対応していく。 ③生活目標「心地よい 学校生活を送ろう」をより高めていくため、自律性を高める声掛けや指導をしていくとともに、児童自ら主体的に学校の規範作りをできるように各委員会を通して取組を続けていく。 ④研究教科を「外国語」とする。言語活動を取り入れた授業を通して、自分の考えや気持ちなどを、伝え合うことができる力を養う授業の工夫を進める。		①仲間や運動との多様な関わりを目指す。また、朝のストレッチや体力向上の実践をもとに授業や行事を計画的に行い、敏捷性や柔軟性、筋力の向上を目指す。 ②なかまと協力し楽しく学校生活が送れているか、児童の小さな変化に目を配り、早期に対応していく。 ③児童自ら生活を振り返る中で、その活動意義を掴みとり、主体的に行動できるようにする。また、児童がお互いに声をかけ合いながら規範意識を高めていく。 ④外国語科の領域の中の「話すことを」を重点項目とし、言語活動を取り入れた授業を通して、自分の考えや気持ちなどを、伝え合うことができる力を養う授業の工夫を目指して、取組を進めていく。				①朝のストレッチや授業を通して、児童の基本的な体力を高めていく。また、低学年から系統だてて指導できるように、各学年での指導内容を明確にしていく。 ②なかまと協力し楽しく学校生活が送れているか、児童の小さな変化に目を配り、早期に対応していく。 ③落ち着いた学校生活が送れるよう、職員で指導について共通理解を図りながら声かけを徹底していくとともに、生活目標「心地よい 学校生活を送ろう」をより高めていくため、児童自ら主体的に学校の規範作りをできるように、各委員会を通して取組を続けていく。 ④言語活動をより豊かなものにするために、タブレットを効果的に使う授業の工夫を目指して、取組を進める。				
具体的達成目標と評価指標		自己評価		外部アンケート		自己評価		学校関係者評価		
重点課題番号	具体的に、何を、いつまでに、どの水準まで、数値化 公表 6月25日 ホームページ 文書配布 説明会実施 その他	評定 評価 9月2日 公表 ホームページ 文書配布 説明会実施 その他	中間評価		保護者アンケートからの分析		最終評価		評価者人数 5人	
			評価	2021/2/	評価	2021/2/	評価	2019/2/	評価	2月25日
			公表	2月25日	公表	1月25日	公表	2019/3/	公表	3月24日
			公表方法	ホームページ	公表方法	ホームページ	公表方法	ホームページ	公表方法	ホームページ
1	○ストレッチが計画的に実施できるように、年間計画を作成し、終礼等で教職員に紹介する。 ○休み時間に外遊びの頻度が増えるように、各学級で学級遊びをおこなったり、運動集会への参加を促す。 ○学習カードを活用し、思考力・判断力をつける。また、カードを通して自分の運動の上達可視化できるようにする。	「運動することが好き」と答えた児童は、87.9%であった。外遊びの奨励や学級遊び、運動集会などの取り組みを通して、運動に親しみ、仲間と関わり合う機会を増やしていきたい。「体育の授業でできることが増えた」の項目で肯定的に答えた児童は、88.6%であった。多くの児童が自分の成長を感じることができている。目標の90%を目指すために、体育の授業では、体育カードを使い、めあてを意識させて、最後に振り返るなど自分の伸びを実感できるようにしていきたい。また、掲示物を使うなど、わかりやすい授業づくりをしていきたい。	どの項目も1学期に比べると肯定的な意見の割合が増えている。「体育の授業でできることが増えた」と答えた児童の割合が90%を超えた。この学年も体育カードを使い、めあてを持たせて、それを振り返るという活動をするように、今後も取り組みを続け、体力テストなどの目に見える形でも成果を上げていく必要があると考える。	「学校は、子どもの体力向上に取り組んでいる」の項目で肯定的な意見が92.1%の高割合であった。児童の体力の高まりをより実感できるように、今後も取り組みを続け、体力テストなどの目に見える形でも成果を上げていく必要があると考える。	本年度は、コロナがあり、1学期は、運動に親しむための取り組みをなかなか行えなかったが、2学期以降、できる範囲で運動に親しめる機会を作ってきた。各学級で行う学級遊び、学年での運動タイム、全校で行う運動集会などを行う中で、児童は運動に親しむことができたと思う。運動行事をきっかけに、外へ遊びに行く児童も増えている。授業を通して、友達同士で声を掛け合ったり、競い配膳しつ補給をしたりする機会を増やし、学び合いができる環境をより整えたい。本年度は、コロナでの休校があったり、運動が制限されたりと、児童の運動の機会が減ったことから、学校で多様な運動に親しむ機会を作ることの大切さを改めて実感している。	・子どもと一緒に遊んでくれる先生が多いのは、子どもを運動好き・外遊び好きに育てるために、とても良いと思う。休み時間に遊んでくれる先生は、子どもたちに慕われるのではないだろうか。 ・今年度、コロナの影響で、休校になったり運動が制限されたりしたので、そのことが子どもの体力や筋力への低下につながるのではないかと危惧している。				
2	○児童の実態を把握し、支援の方法について研修する。 ○授業のユニバーサルデザインの取組を収集し、紹介する。 ○「ほかほか言葉」の年間計画に基づいて指導を行う。 以上の取組を行い「なかまと共に学ぶ」ことを嬉しく感じる児童を85%以上にする。	巡回アドバイザー等の指導を参考に児童の実態把握に努めている。「なかまよく学校生活を送っている」と肯定的な回答をした児童の割合はこの学年も大きくなっている。これは、教師集団で共通理解し、指導しているせいだからと考える。「困っている友達に声をかけた」に関して、目標の85%を上回っている。「仲間が頑張る姿を見て、頑張ろうと思う」に関しては目標85%を達成できているので、今後も、行事への取り組みなどを通じ、頑張っている児童を推奨し、友達と協力することに喜びを感じる児童が増えるよう指導していく。	「協力しなかまよく学校生活を送ることができている」と肯定的に回答した児童は、96.6%。「仲間が頑張る様子を見て、自分も頑張ろうと思うことがある」の肯定的な回答は86.2%である。行事など仲間と力を合わせて取り組む活動を設定し、細やかに指導した成果が表れていると考えられる。	「子どもは、友だちと仲良く学校生活を送っている」の肯定的な回答が96.9%。「学校は、子どもたちに思いやり的心を持たせ楽しい学級作り・学級行事に取り組んでいる」の肯定的な回答は89.8%であった。どちらも高数値と言える。引き続き懇談会や通信などで学校の取り組みを伝えていきたい。また、児童の小さな変化に目を配り早期に指導するように、いっそう心がけていきたい。	「協力しなかまよく学校生活を送ることができている」「仲間が頑張る様子を見て、自分も頑張ろうと思うことがある」と肯定的に回答した児童は目標数値を超えている。新しい生活様式の中でも学級活動や行事などで仲間と力を合わせて取り組む活動を設定し、教師間で連携しつつ細やかに指導した成果が表れていると考えられる。ただ、否定的な回答をした児童も少数ながらいるので、児童の様子に気を配り、早目の対応を心がけていきたいと考える。	・たてわり活動について、子どもたちが学年に関係なく、ともに活動をする機会があるのは、子どもの成長にとって、大切なことである。特に6年生に、最高学年の自覚と責任を感じさせるために、今後も続けていってほしい活動である。 ・東小学校は、いじめや仲間はずれがなく、みんな仲良く過ごしているように、取り組みの成果が表れていると思う。				
3	○年間目標を各教室・廊下等に掲示する。 ○委員会の児童を中心に、お互いに声をかけて廊下の歩き方を意識させる。 ○サイレント掃除をし、みんながきれいと思える清掃活動をさせる。 ○「あいさつ運動」等を通して、相手にとどく、心地よいあいさつができるよう、心がけさせる。 以上の取組で、廊下歩行の約束を守れた児童80%以上、みんながきれいと思える掃除ができたと感じた児童80%以上、相手にとどくあいさつができたと感じた児童90%以上にする。また、本年度は取り立てて、保健指導と協力しながら、手洗いの徹底を促していく。	廊下歩行については、できていない児童は全体の88%であったが、歩いている児童は77%であった。走ってしまう児童の理由として「急いでいたから」を選んでいる児童が62%と多く、次いで「進んでいたから」と回答している児童が13%。「なんとなく」と回答している児童が1%と例年と比較して多い。学校での生活の仕方について再度指導していく必要がある。また、教室や廊下で遊んでいる児童もいるので、なぜ走ってはいけないのかを理解した上で、児童間でお互いに声かけができるようにしていきたい。 清掃活動では、84%の児童ができていたと回答している。廊下の拭き方等、正しい掃除の仕方を徹底して指導するようにしていきたい。 あいさつは、この学年も気持ちよくできている。高学年は地域でのあいさつも含め、続けていけるように指導していく。	廊下歩行については、できていない児童が77%と、目標の数値にはとどかなかった。階段で走っていたり、教室から飛び出していたり、校舎内を走ることで怪我につながるということが意識できていない行動がみられる。廊下を歩くことの必要性や意義を伝えるとともに、「余裕を持って学校生活を送る指導」が必要である。 掃除は、86%の児童ができていないと回答し、各学年実態に応じてサイレント掃除の意識も高まってきた。また、生活のめあて強化週間中は、より意識して掃除ができていた。 あいさつは、元気にできる児童が多い。相手を意識して丁寧に自分からできる児童が増えるよう、今後も指導する。	「子どもは、交通ルールを守って登下校をしている。」については、肯定的な意見が95%で、理解いただいている。地域の方々の立哨や声掛けの支援に助けられているところも多いので、今後も連携していきたい。 「子どもは、あいさつを進んでいる」の項目については、「できていない」と感じている保護者が82%であった。本年度、教員が教室で朝の健康観察をする必要があったので、校門での立哨は変わらなかった。今までの習慣がしっかりと身についているためだと考えられる。来年度以降も、決まった場面だけでなく、相手を意識した場面に合わせたあいさつを自分からするなど、あいさつの質がさらに向上するよう、声掛けを大切にしていきたい。	「生活のめあて強化週間」を毎学期実施し、高学年の児童が下学年に声をかけることで、自ら廊下歩行やサイレント掃除を守ろうとする意識が高まった。本年度は健康観察の必要性から、職員の校門指導ができなかったが、アンケートの結果挨拶を進んでいる児童の割合が昨年度と変わらなかったのは、今まで本校で取り組んできた挨拶に関する取組が習慣化しているからであると考えられる。しかし、帽子や名札の着用等、校内のきまりに関して指導が徹底できていなかったところもあるので、落ち着いた学校生活が送れるよう、職員で共通理解を図りながら指導を徹底していく必要がある。	・登下校のルールは守れているように思うが、何人かの児童が走って登校して、危ない場面があった。 ・登校時は、見守り隊の方が大勢立哨してくださっているが、下校時は見守りが少なく不安を感じる。地域での見守り活動を強化していきたい。 ・あいさつについて、朝の登校時に、ずっと下を向いてあいさつをしない子がいるので、心配である。みんなが、朝から元気に登校できるようになれば良いと思う。				
4	○外国語の授業を計画的に行う。 ○重点教材を選定し、自分の考え、気持ちを伝え合うことができる力を養う授業の工夫を目指す。 以上の取組を行い、「英語の学習をすることが好きだ」と肯定的に回答する児童を80%以上にする。	「英語の学習をすることが好きだ」と肯定的に回答する児童を80%以上、「英語の授業で、今まで練習してきたことを使って友達と伝え合うこと」と肯定的に回答する児童を80%以上にする。では、学校全体では、まだ達成していない。1学期は、コロナの影響もあり、ペア学習の機会があまりなく、友達同士で挨拶できないようになっていたことや、マスクを着用していたこと、理由として考えられる。そこで、2学期は、距離を取りながらできるアクティビティを工夫したり、朝の会などで挨拶や天気などを言い合ったりして、英語を使う機会を増やし、楽しく学習をしていけるよう進めていきたい。	「英語の学習をすることが好きだ」と肯定的に回答する児童は80%(前回75%)。「英語の授業で、今まで練習してきたことを使って友達と伝え合うこと」と肯定的に回答する児童は74%(前回66%)と、1学期よりもできたと感じる児童の割合は高くなった。年度初めの目標値には達していないが、新しい生活様式の中で、友達同士で関わり合いながら学習する機会も増え、楽しく活動できたこと、英語に慣れ親しむ児童が増えたこと、見通しをもたせ、自信をもって学び合える授業を進められたことが良かったからだと考える。今後も、ALT、ESとも連携しながら、担任が進めていき、児童が生き生きと活動できる授業づくりを目指していきたい。	「子どもの英語への関心が高まってきている。」では、肯定的な回答の割合が約74%で今年初めの項目であったが、予想以上に高いと感じた。学年便り、進業などで英語の内容を知らせていること、参観で、複数の学年で英語の授業を保護者に見ていただいたこと、普段から子どもたちが、学校での様子を家で話していることが理由なのではないかと考える。 また、「子どもは落ち着いた、人の話を聞いたり、自分の考えを話したりするようになってきている。」で、肯定的な回答は約97%であった。これは昨年度と変わらず、80%を超えている。1学期当初は、マスクをしていても、話すことには消極的な児童も多かったように思う。2学期になり、話を聞く、するときの約束を守り、生活できていると思う。落ち着いた行動できる本校の児童の良いところである。	研修教科を「英語」とし、各担任がT1となり、ALT・ESと連携しながら、授業を進めた。担任が、クラスルームイングリッシュを努めて使い、デモンストレーションを楽しくすることや、安心して英語に親しめるゲームや見通しをもって学べる授業計画により、「英語で伝えたい」と思う子どもが多く、なったと思う。英語の流れを共通の形式の指導案にしたことで、ALTともスムーズに授業ができた。	・今年度は英語活動の研修を行ったようだが、英語を嫌いなにならないよう、英語に楽しく触れ合える授業を行ってほしい。 ・来年度は、英語の授業を参観させてほしい。 ・日本語や英語にこだわらず、伝え合うことが大切だと思う。そのためには、自分のことを受け入れてもらうという安心感が教室の中になくてはいけないと思う。				